

行政視察報告書

委員会名	建設産業委員会
派遣委員	委員長 川辺 隆 副委員長 安東 鉄男 委員 河野 巧 委員 匹田久美子 委員 武生 博明 委員 牧 宣雄
日 程	令和6年10月24日（木）13：00～14：30
視 察 先	山口県下関市
調査項目	唐戸市場について

1. 調査目的

下関市の唐戸市場では、民間活力を活かした市場運営が行われています。地元の漁師が獲った魚や養殖した魚などを直接販売しており、地元卸売市場としては全国的にも珍しい販売形態を行っています。現在は、毎週末と祝日に「活いき馬関街」を開催しており、魚食普及を目的に魚を楽しんで食べてもらうイベントとして多くの観光客が訪れています。臼杵市では、漁業の担い手不足や魚の地産地消など課題を抱えており、唐戸市場の販売形態や市場活性化のための取組について調査・研究を行いました。

2. 調査内容

（1）視察先の概要

下関市の人口約24万人、面積は約716平方kmと臼杵市の2.5倍の面積に対し、人口は7倍ほど多く、本州の一番、西の端にある山口県で一番人口の多い市です。

唐戸市場は、昭和8年の開設以来、業者相手の卸売機能と、一般消費者も気軽に魚や食料品を買える小売機能をあわせもつ庶民的な市場として市民や観光客に親しまれてきました。また、市場を流通した水産物の販売だけでなく、周辺の沿岸漁業が漁獲した魚や農家が収穫した農産物を自分たちで販売しており、新鮮で豊富な品揃えという唐戸市場の魅力につながってきました。施設の老朽化に伴い、平成13年4月現在地に新設され、市民の台所として培われてきた伝統をそのまま引継いでいます。

（2）調査結果

唐戸市場の総事業費は約77億円で、下関市（市場流通課）の直営となっています。関門海峡を望む稀有なロケーションとボードウォークによる周辺施設との回遊性の確保が進んだことやカモンワーフといった商業施設が出来たこと、場内の民間事業者が自発的にイベントを開催したこと、もともと市民や観光客も入場できる施設であったことなどが賑わいの創出の理由として上げられていました。また、屋上には芝生広場も整備され、市民や観光客の憩いの場にもなっていました。

当施設の卸売業者は1社、仲卸業者は20社で、卸売業者から仕入れたものを中卸し店舗で販売していました。関連事業者は80社にのぼり、食料品や成果、生花など、市場機能の

充実を図り、全体的な利便を提供していました。

全国的に漁獲高が減少するなか、同市場の取扱数量も平成7年の5,400トン、取扱金額約50億円から令和4年には取扱数量1,300トン、取得金額約13億円と約4分の1にまで減少し、この要因として、生産者の減少や市場経由率の低下、消費動向の変化が挙げられていました。同市場では、セリも早朝より行われていますが、一般消費者向けにも販売が行われており、週末及び祝日などに「活いき馬関街（ばかんがい）」として市場内の店舗で握り寿司や海鮮丼、フライ等が販売されており、日本人以上にインバウンドによる海外からの観光者も多く来場していました。唐戸市場には年間140万人が訪れ、食をアピールする良い機会となっており、この、活いき馬関街は行政が主となり開催するのではなく、自分たちで唐戸市場を盛り上げたいという思いで自発的に始まったものであり、活気に満ち溢れていました。

また、学校給食に下関市特産の「ふぐ」や「くじら」を出したり、市場内に魚食普及センターがあり、魚を使った民間料理教室を行ったりと、食育や地産地消の促進につなげていました。

3. 委員会の所感

下関市は、観光と産業を上手く一体化させ、観光客の呼び込みに多大な成果を収めており、参考になるところが多く、本市としても国宝臼杵石仏をはじめとする文化財や歴史、そして農産物や海産物などの食文化を繋げ、観光や産業の更なる向上を目指したいと思いました。

さらに、学校給食に下関市は特産の「ふぐ」や「くじら」を出しており、食育や地産地消の促進の観点から、農産物のほかにも、地元の魚介類なども、学校給食のメニューに加えることも必要ではないかと感じました。

4. 視察状況

